

ALT



こんにちは
マーシャル・ラビル
外国語指導助手 (ALT)
です

JA, MATA NE (ジャア、マタネ)

あいさつと自己紹介の言葉をつい最近書いたばかりなのに、もうお別れです。奈良県の中でも特にすばらしいこの土地で、わたしは感動的な2年間を過ごすことができました。こんなにたくさんの思い出ができて、こんなにたくさんの友だちができたのに、引っ越していくのはとても悲しいです。思えば私の人生は、いつも引っ越しでした。15歳で家を出て寄宿舎に入りそれから大学に移り、そして今、西吉野の地を後にしようとしています。それぞれの引っ越しのたびに、わたしは能力と経験を深め、人生を豊かにすることができたと思っています。日本に来たことで、世界と自分自身に対する見方をかえることができました。

子供の時、異なった世界で成長していくのは、いったいどんなものなのかとよく考えました。うれしいことに私は「極東」という土地を見ることができ、そこで暮らすことができました。たくさんの人々に出会い、たくさんの友達を作りましたが、それでもなお私は「外国人」であることを意識せずにはいられていませんでした。マイノリティー（少数者）の自覚を、日本に来て学ぶことができた一番価値ある教訓でした。どこへ行っても私の中の「外国人性」は、人の目を引きまします。私は常に、人々のステレオタイプ的な物の見方を助長させるより、打ち破りたいと願ってきたので、これは大事なことでした。私がここにいることによって、周りの人々にほとんどの日本人ができることはこの私にもでき、世界のほとんどの人々が楽しめることは、この私にも楽しめるということを知ってみたいと願ってきました。顔は小さくて目は青く、ひげを生やし、腕や足や胸は毛深いけれど、そんな私もお箸を使い、野球のボールを投げ、書道や茶道をすることができ、朝ご飯にはみそ汁を飲むのです。（実際私はパンがあまり好きでないのです。）

こういった経験を通して、NBAのスター選手になるのは別としても、私には何でもできる能力があるということを知ることができました。これは日本に来るまではわからなかったことです。日本での経験が私に、世界に飛び出し、夢をかなえて行く自信を与えてくれました。日本に来ることは夢であり挑戦でしたが、もっとも大事なことは、それは非常に楽しいことでもあったということです。旅することは素晴らしいことですが、それぞれの土地を特別なものにしてほしいのはそこに住んでいる人々なのです。日本の人々は私にとっても親切にしてくれました。いつか皆さんがアメリカに来られた時には、是非そのお返しをしたいと思います。

旅は人の心を開き、人生を豊かにしてくれます。皆さんが私の生活に影響を与えてくれたように、私も皆さんの生活に少しでも良い影響を与えることができると願っています。最後に皆さんに特に、生徒の皆さんに言いたいのは、「ムリ」という言葉を使わないで欲しいということです。「ムリ」(impossible)という言葉は、人生に対してとてもひどい言葉であり態度です。言い古された言葉のように聞こえますが、人生に不可能はありません。「デキル」という言葉は「ムリ」よりずっと素晴らしく、また人を高めてくれる言葉です。

さて、いよいよ「C U」(See you またね)と言わねばなりません。この素晴らしい地域社会の一員であったことを、大変うれしく誇りに思っています。西吉野と五條は私の故郷、高校、大学と同じように、私の心に優しいです。

このあいさつをどう終えて良いかわかりませんが、この機会を与えてくださりましてありがとうございました。別れは悲しいけれど、私はまたいつか戻ってきますので、ただ「ジャア、マタネ」と言っておきたいと思います。
PEACE

*この記事は、ALTの書いた英文を訳したものです。
英語版は中央公民館にあります。